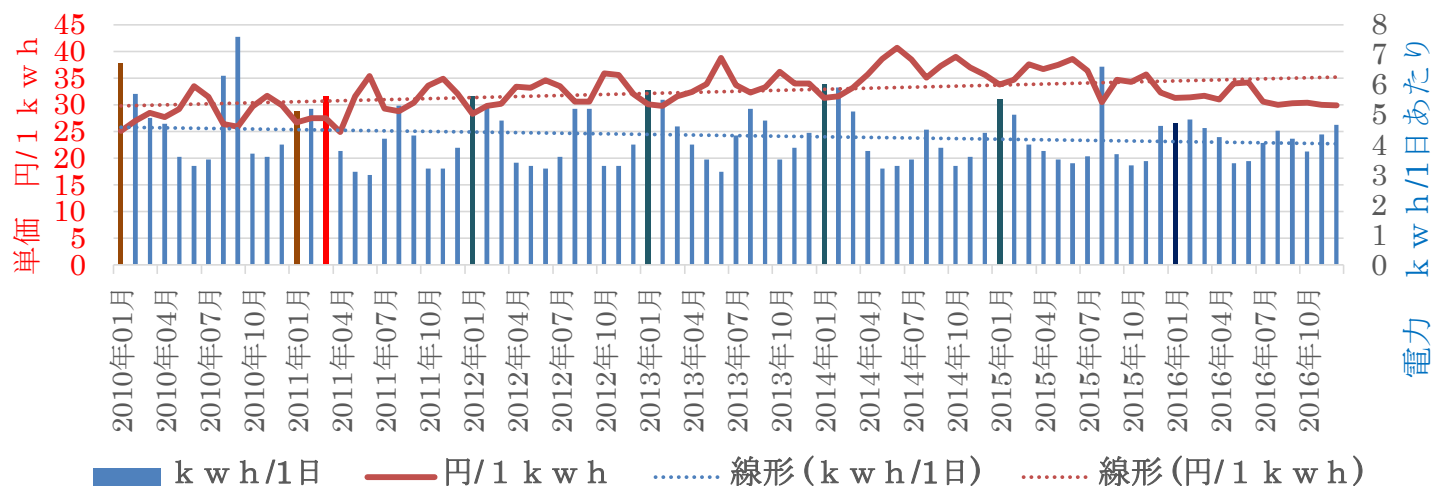


1日当たりの消費電力と購入単価 変遷

東電検針 月次の1日消費電力と単価 1 k w h (円) 表示
過去7年間

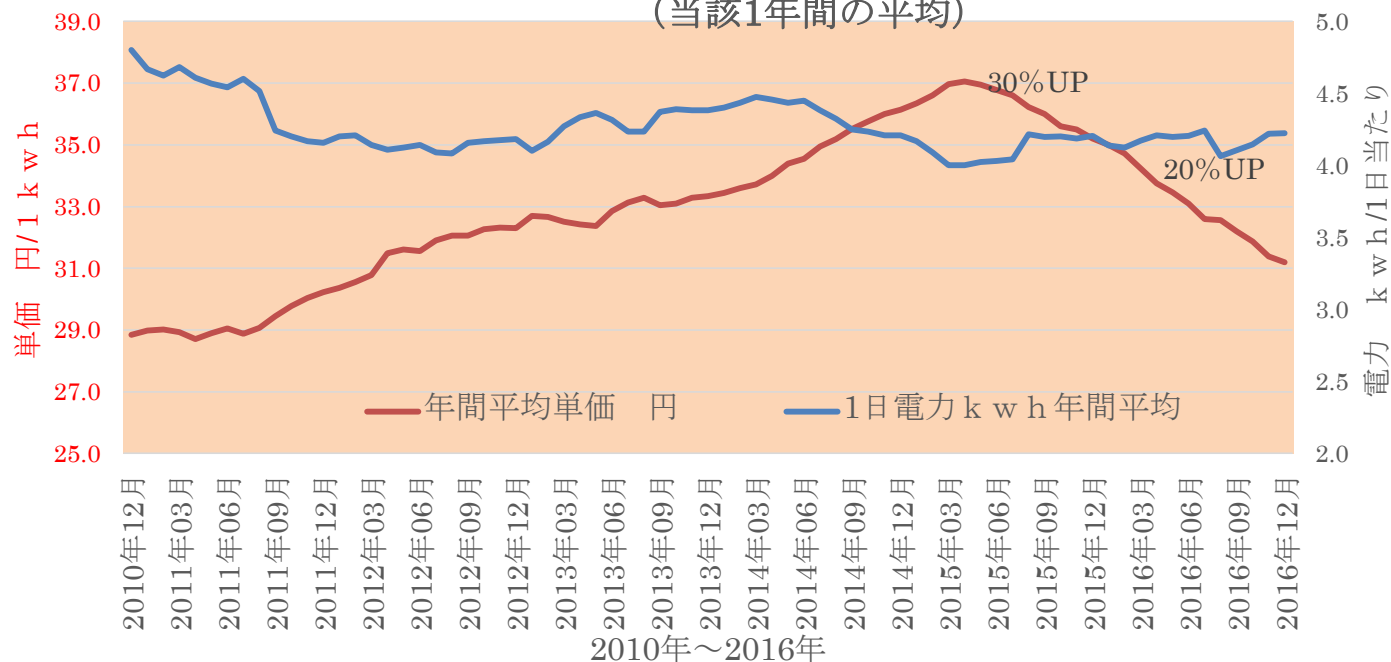


コメント

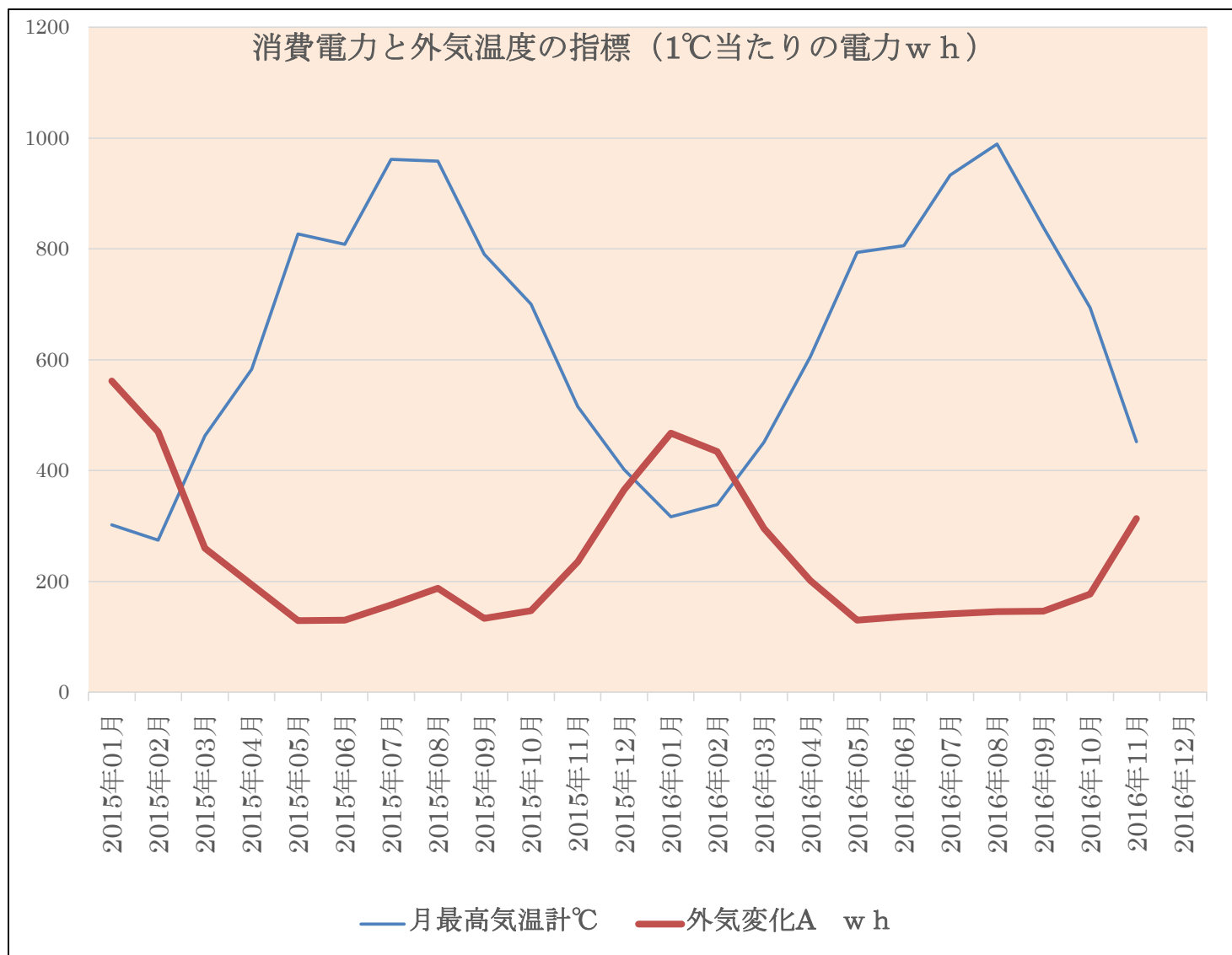
- ・単価の上昇は：震災前と、その後の1kWh平均単価は、前と後では20%UPしている(2016年3月時)
- ・消費電力大小と1kWh当たりの単価は
消費量が大：単価が安い、消費量が少ないときは単価が高くなる
基本契約金が大きいため、消費量金額の比率に左右される。
対策は基本契約電流値(60A)を小さく変更すること
- ・消費電力は：1日あたり年間平均電力では10.6%減っている。(2016年3月時)
第1段料金内の月数は 40か月(40/84)約48%の半数にもなる月数がある

電気の購入単価と1日当たりの消費電力 当該年間平均 推移

震災時以降の電気料金単価と1日年間平均電力
(当該1年間の平均)



2015年と2016年の気温変化による変化指標w h (月消費電力k w h／日毎の最高気温 月合計 ℃)



資料作成：新田 修

(2016-12-20)